

2020年 東京オリンピック・パラリンピックがやってくる 秩父宮記念スポーツ博物館北海道巡回展

1964年10月10日、国立競技場の青空のもと、第18回オリンピック東京大会の幕が華々しく開きました。参加国数が過去最多となるなか、日本選手団は金銀銅あわせて29個のメダルを獲得するなど、目覚ましい活躍をみせました。半世紀を経過した現在でも、歓喜の瞬間は色褪せることなく鮮やかに甦ります。

本展覧会は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、スポーツ遺産を日本全国の皆さまに広めるべく、企画しました。1964年の東京オリンピックを中心に、日本が初出場した1912年のストックホルムオリンピックから2020年に迎える東京オリンピック・パラリンピックに至るまでの歴史を紹介いたします。



スパイク(三島弥彦)

第5回ストックホルム大会／1912年

日本初参加となるストックホルム大会で、陸上競技の三島弥彦が実際に履いたもの。



デレゲーションユニフォーム

第18回東京大会／1964年

日本選手団が開会式で着用したユニフォーム。日の丸を基調とした赤色のデザインが採用された。



聖火トーチ

第18回東京大会／1964年

トーチは、ステンレスの円筒に点火薬と発煙薬などを詰め込む。燃焼時間は14分ほど。トーチホルダーは柳宗理のデザイン。ランナーの負担を考慮した軽量のアルミニウムを主成分とする合金製である。



開催案内パンフレット

第12回東京大会／1940年

1940年の東京オリンピック開催を案内する英語版パンフレット。大会は日中戦争により返上することとなり、幻のオリンピックとなった。

トークイベント

「金メダリストが語る オリンピック・パラリンピック ～過去そして未来へ～」

2月3日(金) 11:00～12:00



MC
逸見佳代

1979年生まれ。山梨県笛吹市出身。スキー・フリースタイル・エアリアル選手として2006年トリノオリンピックに出場。ワールドカップには1997年より参戦し、自己最高8位。そのほか、全日本選手権大会優勝10回、世界選手権大会出場3回を誇る。現在は、全日本スキー連盟フリースタイルスキーエアリアルコーチのほか、Bifuka Air Force所属・コーチ、美深町冬季スポーツ指導員・北海道地域タレント発掘・育成コンソーシアムコーディネーターを務めている。



ゲスト
阿部雅司

1965年生まれ。北海道留萌郡小平町出身。スキー・ノルディック複合の選手として1988年のカルガリーオリンピック、1992年アルベールビルオリンピック、1994年リレハンメルオリンピックの3大会に出場。1994年のリレハンメルオリンピックでは複合団体金メダルを獲得。そのほか、1993年スウェーデン世界選手権、1995年カナダ世界選手権でも複合団体金メダルを獲得している。現在は、名寄市特別参与スポーツ振興アドバイザー、全日本スキー連盟複合専門委員を務めている。



ゲスト
河合純一

1975年生まれ。静岡県浜名郡舞阪町出身。生まれながらの弱視で右目のみ0.1の視力であったが、15歳で失明。5歳から始めた水泳でバルセロナ大会、アトランタ大会、シドニー大会、アテネ大会、北京大会、ロンドン大会と計6回パラリンピックに出場し、金メダル5個を含む21個を獲得した(日本人最多)。2016年には日本人として初めてパラリンピック殿堂入りを果たす。現在は、日本スポーツ振興センターの研究員として働く一方、早稲田大学で非常勤講師として教壇に立ち、同時に日本パラリンピアンズ協会会長も務めている。

巡回展を開催する特別展示室は無料ですが、総合展示室は下記入館料がかかります。

■ 総合展示室料金 一般 600 (500) 円、 大学生・高校生 300 (200) 円

※()内は10名以上の団体料金 ※ 障害のある方は無料(障害者手帳などをご提示ください) ※ 中学生以下、65歳以上の方は無料(年齢のわかるものをご提示ください)